

この報告書は諸君の参考の爲に現下の戦線統一を中心とする各團體の動靜を調査したものである。

二、總同盟の動靜

總同盟の動靜については最近數々新聞紙上にも報告されてゐる。總同盟内の機關紙もその大要は報告した。總同盟内の合同運動は本年春以來、總同盟の關西中心勢力たる大阪聯合會の中心堅調士諸君によつて提唱せられ、大阪合同、大阪紡織、大阪金屬等の同聯合會の中心的大組合に於いて壓倒的勢力となり、四月八日の大阪聯合會大會に於いては合同論は遂に大會を壓倒し、「吾々は今日の段階に於ける福本一派の運動が過失ありしことを認めると同時に、一方極右翼の反階級的たるを思ひ、此の意を含んで合同せんとするものなり」との合同運動に對する態度を決定するに至つた。即ち我等の同盟並日勞黨の統一方針と同様の態度をとるに至つた。この決議は單なる空景氣的の無條件合同の要求となり、去る九月九日、十日、十一日の總同盟の中央委員會では、總同盟及社民黨の運動方針に關せざる限り「個人の資格で合同問題の協議をなすの自由」を認めるに至つ

た一半によつて裏切ることが出来よう。要するに社民、日勞兩黨を中心とする戦線統一の氣運は今も總同盟内部に於いて牢固として固くべからざる勢力となつて着々成長しつつある。勞働組合同が總同盟と組合同盟との間に進展する爲に先づ社民、日勞兩黨の合同を伴ふことは何人の見解も一致する點であつて、我等は此の總同盟の合同運動に對して期待する所大である。

總同盟の内部に社民、日勞兩黨の合同運動の成長する理由は左の如くであらう。

- 1、社民黨は小ブルジョアを中心として結成せられてゐる結果として稍もすれば無産政黨の階級的立場を失ひ勝ちである。ここに勞働者の不満がある。
 - 2、社民黨は農人大衆を持たない。又地方社民黨には既成政黨の落伍者を多く含み、それ等には農人大衆の信望はない。そこに社民黨の地方的進出の困難がある。
 - 3、總同盟内の合同論者は社民黨の此の缺陷を匡正するには日勞黨との合同實現によるべしとする。
- 三、舊労働黨の動靜

舊労働黨の解散前後、既に評議會の経緯闘争團體としての實力は消散してゐた。従つてその戦線統一方針の如きも實を伴はざるかけ聲程度のもので實際的には動靜を重ねつつある。最初は何れも産業別組合の實現による統一同黨の解體を主張した。その後統一同黨系の各組合を糾合して評議會再建運動をなしつつあるが、關東電氣が凋落して以來、これも行き儘みの形にある。舊労働黨支持の労働團體かかくの如き以上は新黨組織準備會も最早統一運動の上には何等の役割も持ち得ないものとはなつた。併し全國農産組合中には舊労働黨を支持し來つた農民團體があるが、今日の新黨組織準備會を組合として支持するが如き事は不可能な状態にある。従つて舊評議會系並に新黨組織準備會の統一運動の西鄙は一言にして盡せば思想的宣傳の範圍に止まり、何れの現實性なきものと見てよい。

今日日勞社、の兩黨以外、數個の地方政黨は日勞、社民兩黨の何れかの系統に屬するか、さなくば日和見の立場にある。且つ無産大衆黨一層近頃成長來積極的に統一戦線に進出しつつある。今此の政黨の情勢を見るにその勢力は小ブルジョア分子と若干の地方農黨であつて、労働團體の支持は僅少である。今

日反幹部の立場より舊労働黨の大衆糾合に全力を傾倒しつつあるがその勢力は微弱である。その統一方法は自ら左翼大衆政黨を標榜して新黨組織準備會と對立し、日勞黨その他無産政黨との合同に力まんとせるものである。従つてその具體的方策は左翼大衆政黨を標榜する立場よりして必然に日勞黨との合同に直進せんとする體がある。無産大衆黨かかると統一方法をとらんとする理由は左の如くであらう。

- 1、此の政黨は小ブルジョアを中心とする故にこの政黨が左翼大衆政黨とらんとするは單に觀念的なものに過ぎない。
- 2、此の政黨は全舊労働黨系の農民獲得を目標としてゐる。それ故に日勞黨系と接近を第一とする。

四、結 論

我が組合同盟及び日勞黨では之等の状態を見て具體的統一運動を積極に協議しつつある。我が日勞黨内にて關西地方の各組合は今日では總同盟と阪聯合會との間には何等の對立を見ないのみならず、合同の協議の進展を見つゝある。關東に於いては尙も此迄に至つてない。日勞、社民兩黨合同の懸念の一つは恐らく故にあるであらう。次に無産大衆黨との合同問題は其の解決